

感動を演出するパラダイムシフト

福岡女学院に来て1年が過ぎようとしています。みなさんも過去そうであったように、なぜ来たのですか？と言われても、私の場合たまたま感があります。しかし、この「偶然」をクリスチャンは「必然」、つまり、「神様のご計画」と言います。

私のこれまでも、会おう必要のなかった人は一人もいないと思っています。必要でなかった経験は一つもないと思っています。私は、この学校に来たことを「会うべき時に、会うべき人に会っている」と出会いをポジティブに捉えています。この感覚、考えは、これまでもそうでした。出会いをネガティブに捉えることは、とてももったいないと思っています。生徒のみなさんもそういう感覚、考えになっていたらうれしいと思っています。1学期、図書館でこれまでの卒業アルバムを見ました。目的は、本校の先生方の顔を見たいからです。マスクで顔が見えないというのは、新しく来た者としてはとてもストレスが大きかったです。だから卒業アルバムを見て、先生方とずっと前から知り合いのように思いたかったのです。

さて、タイトルの『感動を演出するパラダイムシフト』についてですが、みなさんの経験則でもきっとそうだと思いますが、感動には大きなパラダイムシフトが付きものです。例えば、「楽しみにしていた映画を見に行き、実につまらない映画でガッカリした」という経験はないですか。おもしろいと思って楽しみに見に行ったら、おもしろくなかったときは、本当にガッカリです。逆に、「つまらないと思っていたら、おもしろかった」ときはどうでしょう。たまたま時間つぶしに見た映画だったが、そのおもしろさに感激し、期待以上に感動し・・・これがパラダイムシフトなのです。つまり、パラダイムシフトとは、「パターン化した視点がガラッと転換すること」です。「思い込みがひっくり返ること」とも言えます。

「授業＝つまらない」「先生＝わからず屋」みたいな思い込みは、一つのパラダイムです。それが、「授業＝おもしろい」「先生＝魅力的」へ転換するとき、人の心には感動が生まれ、行動する原動力を生み出します。一般的に転換の度合いが大きいほど感動は大きくなると言われます。

大きな感動を与えるためには、パラダイムシフトを起こす必要があります。そのためには、先生とみなさんで授業や部活動などで、共にパラダイムシフトを起こしていくことが大切になります。

パラダイムシフトが起きるケースはいろいろありますが、次の3つが代表的です。

- ① 無意味→意味付加
今まで、無意味と思っていたものに、突如意義を発見したとき。
例えば、ドラマで序盤のなんでもないシーンが実は伏線になっていて、それが最終的にドラマの結論のカギになっていたとき・・・感動
- ② 複雑→単純
一見ややこしいことが、実は単純だったとき
物事が複雑なほど「要はこういうこと」と気づいたとき・・・感動
- ③ 見えない→見える
例えば、数学の確率の問題も、それが日常生活へ応用できると知れば、突然見えるのだから、目からうろこで、数学に対して・・・感動

私たちは（教師・生徒）、もともとの固定観念やパラダイムが崩れ、代わって別の価値観が生まれるとき感動します。そんな感覚を学校生活の中でつかんでほしいと思っています。それがみなさんのこの先の学ぶ意欲にもつながると考えています。

（学校長 重枝 一郎）